

ま え が き



図 歌川(安藤)広重「蒲原夜之雪」

江戸時代の浮世絵師、歌川(安藤)広重の「東海道五十三次」に「蒲原夜之雪」という傑作がある。雪の積もる蒲原(現在の静岡市)の夜の街道を、番傘や菅笠をかぶった旅人の先を急ぐ姿を表している。

この絵を見て、何か不思議に思うことはないだろうか。

絵が描かれたのは、江戸時代後期(1832年頃)。この頃、日本では二種類の宿が各地で増えていった。ひとつは、街道筋にできた「旅籠」で、お伊勢参り等社寺参拝を目的とした庶民を「一泊限り」で泊めていた。なかには飯盛旅籠と呼び、飯盛女が個室で給仕をする食事付きの旅籠もあった。もうひとつは、温泉地に建った「湯治宿」である。こちらは木賃宿といい、湯治場に建ち、炭と食材持参の素泊まりが基本で「七日を一廻りとして滞在」する湯治客を主体とした。現在の温泉地の旅館には創業二百年を数える宿が多いが、この頃に誕

生した温泉宿である。実は、この絵が描かれたこの時代に、これからの日本の観光振興のヒントが隠されている。

本書は、地域観光がどのような方向に向かえばよいのか。近年の出来事をふりかえりながら、地域観光関係者や事業者、観光を学ぶ学生に向けて、その指針とヒントを記した。そのひとつのヒントは、湯治場の時代に戻ることだ。どのような意味で戻ればよいのか、本書を読み進めながら推論をしてみただければ幸いである。

2017年8月

井門 隆夫

地域観光事業のススメ方
— 観光立国実現に向けた処方箋 —

目 次

まえがき	i
------	---

第1章 地域観光の現状と課題	1
----------------	---

- | | |
|------------------------|----|
| 1. 期待される人口減少時代のイノベーション | 1 |
| 2. 訪日外国人旅行者6千万人に向けて | 5 |
| 3. 訪日外国人政策のアキレス腱 | 10 |
| 4. 「おもてなし」の功罪 | 15 |
| 5. 市町村の健全財政に向け観光が果たす役割 | 21 |
| 6. 縮小する日本人の観光需要 | 26 |
| 7. 日本人市場の曜日格差 | 30 |
| 8. 様々な宿泊予約上の課題 | 36 |
| 9. 広報のススメ——消費者に知られるために | 47 |

第2章 地域観光の課題解決	51
---------------	----

- | | |
|--------------------------|-----|
| 1. 協業して起こすイノベーション | 51 |
| 2. 商圏拡大をめざす発想と地域戦略 | 54 |
| 3. PDCAに潜む罠 | 58 |
| 4. 着地型観光の背景と課題 | 62 |
| 5. 地域で通訳ガイドを養成しよう | 66 |
| 6. 地域資源を「編集」、素材を「物語化」 | 69 |
| 7. デビュー企画を作ってみよう | 72 |
| 8. 一人旅のススメ | 76 |
| 9. 「健康ツーリズム」の可能性 | 81 |
| 10. 人ビジネスで開花する地域観光 | 85 |
| 11. 「解禁日」には産地直行 | 89 |
| 12. なぜ山の温泉旅館でマグロの刺身が出るのか | 91 |
| 13. 地域は「肉食」の時代へ | 95 |
| 14. 地元の食欲が拓く地域観光 | 99 |
| 15. 「赤いマーケティング」のススメ | 103 |

第3章 課題解決に向けた取り組み事例	106
1. 予約の取れない温泉宿の物語——おとぎの宿米屋	106
2. 地域の実行体制を作る——松之山温泉合同会社まんなま	110
3. 協業・提携で付加価値を創る——合同会社雪国食文化研究所	114
4. 地域をコーディネートする「社会起業家」たち	118
5. 逆転の発想が「地域おこし」につながる——NPO 法人島の風	121
6. オープン・イノベーション（共創）から始まる地域再生	125
7. 「滞在」が当たり前の宿——斎藤ホテル	129
8. 観光と福祉のコラボレーションへの挑戦——住吉浜リゾートパーク	132
9. 温泉街のイノベーション——阿蘇内牧温泉	136
10. 地域から宿の灯を消さないために——海士町観光協会	140
11. 持続可能な地域づくりとは——海士町「島会議」	143
第4章 地域宿泊業再生に向けて	148
1. 地域宿泊業の近未来	148
2. 装置産業への脱皮に向けて	151
3. 利益重視型「新規参入」旅館のメソッド	155
4. 変わる温泉旅館	160
5. 旅館は複合業態——ドンブリ勘定からの脱却が改革の第一歩	163
6. 日本旅館のFCビジネスは可能か	166
7. 経営から「料理」の独立を	171
8. 素泊まりで地域活性化	175
9. 地域ビジネスの拠点としての「新・湯治宿モデル」	179
10. 旅館料理に奇跡を	182
11. ペスタリアンで地方創生	185
12. 注目したい旅館の「朝ごはん」	190

第5章 最重要課題は人材育成	194
1. 地方観光業の人材確保に向けて	194
2. 必要な宿泊業の定休日	198
3. 人材評価の必要性	203
4. 観光の戦略や実務をどこで学ぶのか	206
5. 「起業したい若者」に未来を託そう	211
6. 地域観光に最も必要なイノベーション	214
7. 2025年の温泉地——変わる旅館のビジネスモデル	220